

(簡略)

『子どもの貧困対策ならびに子ども食堂に関する
板橋フォーラムからの政策提案』

(板橋未来プロジェクト)

2018.12.3

■子どもの貧困対策について

1 課題

- (1) 関係する各種機関・団体の「連携」
- (2) 様々な（支援）情報の「周知」
- (3) 「自立支援強化」
= 各種の調査結果から共通で指摘されている事項

2 提案

- (1) 「連携」について
 - ・ワンストップの相談窓口
 - ・必要な機能とスキルを備えたコーディネーターの配置
 - ⇒（緊急度・深刻度の高い相談の場合）問題の内容や状況を把握し、対処する機関・団体・施設につなげる機能
 - ⇒ 問題解決に向けた対策とその手順をイメージし、大枠の道筋を見通しながら関連する複数の機関と調整・連携し対処する能力

※コーディネーターに該当する人材の存否は不明。不足していれば育成する必要あり。

(2) 周知について

- ・板橋区作成「ひとり親家庭サポートブック」のWeb化
 - ⇒一般の子育て中の父兄をはじめ一般区民向けに広げ
 - ⇒緊急性の低い相談案内にも対応
 - ⇒双方向のアクセスができるようにする
- ※匿名性と共有性の範囲制限を設けた上で、相談者の「相談ごと」をある空間（サイト）にある期間アップすれば、様々なアドバイスを受けられる
 - 【参考】「子ども食堂ネットワーク」HP <http://kodomoshokudou-network.com/>
- ・「広報いたばし」の活用【特集号もしくは別刷り】
 - ⇒子どもの貧困の現状と区の実情紹介・区民への呼びかけ（できることのメニュー紹介）



(3) 自立支援強化

- ・前述「周知」と「連携」が前提
- ・サポートメニューへのアクセスのハードルを下げる
 - ⇒区民の利便性を第一に考え（目指す画面等に簡単にたどりつくような）サイトの工夫・一新
 - ⇒メニューだけ提示し「トライしてみたら」という姿勢でなく、伴走者のように寄り添い一緒に進むような対応が必要

■ 子ども食堂について

1 課題

- ・来て欲しい人や家庭の参加
- ・資金の確保（食材提供を含む）
- ・スタッフの負担、スタッフの確保
- ・地域との連携
- ・リスク管理
- ・会場の確保

※農林水産省「子供食堂と地域が連携して進める食育活動事例集」（平成30年）より

2 提案

(1) 子ども食堂ネットワークの構築

- ・情報共有と地域連携のため、さまざまな立場の関係者が参加する情報連絡会の実施

※関係者事例：子ども食堂、学習支援団体、行政（教育委員会・子ども政策課・福祉部等）、NPO団体（フードバンク）など

※「北区子ども食堂ネットワーク」は北区社会福祉協議会が事務局となって、寄附（物品、食材など）の受付・配分を行ったり、運営団体の交流や情報交換、地域連携・広報力向上につなげている。

⇒北区子ども食堂HP：<https://kita.kodomo-shokudo.net/>

→マップの掲載で子ども食堂ごとの所在地、連絡先など詳細情報がわかる

(2) 子ども食堂の認知度向上策

- ・利用者勧誘のPR：学校・福祉事務所・保健所など公的施設でのチラシ配布など（現況届などに子ども食堂MAP同封）

(3) 子どもの居場所（子ども食堂含む）マップ作成

- ・足立区、北区、練馬区などでも実施

(4) 子ども食堂開設場所の支援

- ・あいキッズ内での開設
- ・「空き家」の活用

(5) 子ども食堂を拠点とした付加価値（機能）の創造

- ・フードバンク、フィット（服）バンク機能を備えた子ども食堂（公設民営）

【参考】行政が独自で行っている子ども食堂開設・運営に当たっての物的・経済的支援等

- 1) 居場所の立ち上げを補助（大阪府交野市）
- 2) 食材費、印刷費など運営費を補助（茨城県日立市）
- 3) 「子供食堂」に特化して補助（愛知県清須市）
- 4) 公民館や学校等の既存の施設を活用した居場所づくりを補助（愛媛県八幡浜市）
- 5) 地方公共団体が民間団体等に居場所づくりの運営を委託し実施（埼玉県東松山市）

◆本提案の関係機関・連携【概念図】

